

飯伊地区 産業経済動向

No.558 2025/9
(7.10.25 発行)



しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>

〒395-0044 飯田市本町 1 - 2

TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真上：リニア発生土の搬入が完了した「発生土置き場下久堅」（飯田市下久堅小林・10月27日撮影）

下の写真は2022（令和4）年7月の同地点・・・ P 1

製造業 景況DIは前月から改善もマイナス圏。食品製造で景況感悪化の声が多い・・・ P 2

建設業 9月の公共工事は前年比減少。8月の住宅着工は前年比7%減少・・・ P 4

商業・サービス業 景況DIは前月から悪化。飲食業、宿泊業で景況感悪化との声が多い・・・ P 5

特集 米国関税の影響に関するアンケート調査結果・・・ P 6

主要経済統計・・・ P 8

飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標・・・ P 10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならず、全国で行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

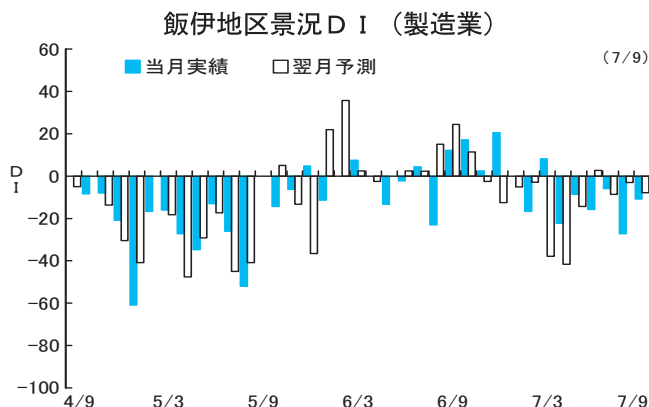
概況 景況DIは前月から改善もマイナス圏。食品製造で景況感悪化の声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス10.8で、前月から16.5ポイント上昇。翌月予測はマイナス7.9で、前月から4.9ポイント低下。当月は、食品製造で景況感悪化の声が複数聞かれた。また機械製造では一部に好転、悪化の声があったものの、全体的に横ばいとの声が多く、悪化の声が多かった前月に比べ、全体での指数は改善した。先行きについては、全体的に横ばい見込みの声が多いが、その中で機械製造では悪化見込みの声がやや多く、食品製造では好転見込みの声がやや多い。一部コメントにあるように、取扱品目によって事業者ごとの景況感の捉え方に差があるように感じられる。

主な業種の動き

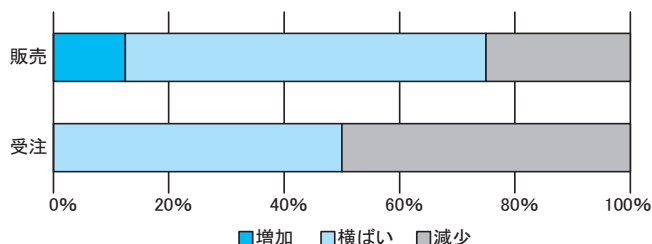
●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売の前月比は業者により増減分かれ、受注は減少～横ばい。先行きについては販売、受注とも減少見込みの声が多い。
- ☑景況感…… 当月はやや悪化～横ばいで、好転との声はない。先行きは悪化を見込む声が多い。



【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



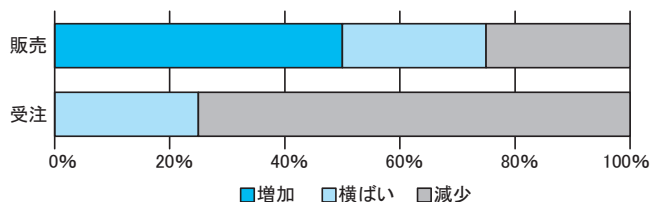
〔企業からのコメント〕

- ・各月に多少の増減はあるが、結局はほぼ同じ水準で落ち着いている。
- ・相変わらず良い話は聞かないが、現状には慣れてきた感がある。

●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 前月比は、販売は業者により増減分かれ、受注はやや減少～横ばい。先行きは減少見込みとの声が多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は業者により見方が分かれる。先行きはやや悪化～横ばい。

半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



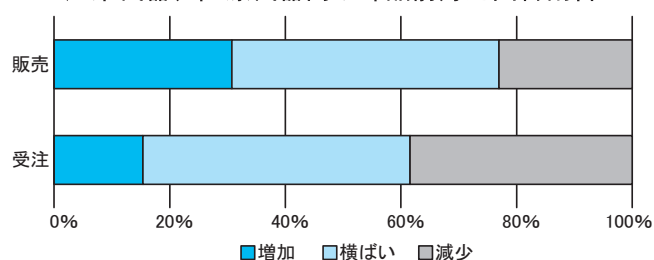
〔企業からのコメント〕

- ・「半期末を迎えて納品量を上げたため売上は増加したが、需要が回復してはいないので、基本的には横ばい傾向。各取引先とも、下期は横ばいもしくは下方気味の予測となっており、需要回復のトリガー待ちの状況」「決算期を迎え、10月分を前倒しする形で可能な限り改善に努めた。ただその反動が10月以降に表れているため悪化傾向と判断。主取引先の失速も影響あり」
- ・「AI向けDRAMメモリ系のエンドユーザーからの引き合いは引き続き旺盛だが、その他は伸び悩んでいる状況。中国新興半導体メーカーの台頭によって価格勝負となることが予測される機種では、廉価版の開発を急ピッチで進めている。最先端機種は競合との開発競争が熾烈となっており、最初に工程認証を受けたメーカーに軍配が上がるため、様々な開発コンセプトが存在しており、当面は開発試作が続くと思われる」「半導体業界は、一部で良い企業もあるとの情報があるが、当社の取引先は良くないと認識している。9月に入り、主取引先から先々の注文が減少するとの話があった。また、期待していた案件も同様にトーンダウンで、年内に受注は回復するものの数量は期待できず、売上減少は否めない。半導体以外の分野は新規案件が多く、こちらの受注率を高めて当面をしのぐ予定」「半導体関連が動き出すのは2027年以降との声がある。あと1年以上は状況は悪いのではないかと」

●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ✓受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、受注は減少との声が多い。先行きについても業者により増減分かれるが、減少見込みとの声やや多い。
- ✓景 況 感…… 当月、先行きとも横ばいとの声が多い。先行きは業者により見方が分かれるが、一部に好転を見込む声も。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



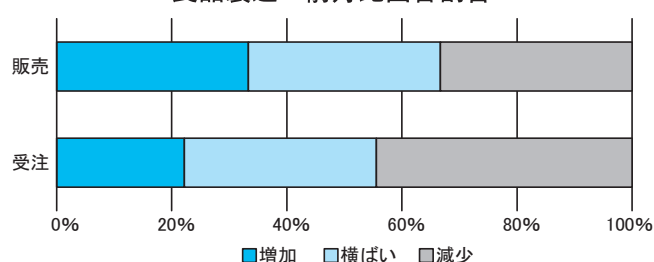
〔企業からのコメント〕

- ・「航空、防衛関連が好調を維持しており、今後の受注が増えてくる連絡が来ている。一方で、自動車、FA、半導体製造装置関連、医療などは低迷しており、景気のいい会社と悪い会社の差が大きいと感じている」「展示会の状況は好転しているように思える」「不透明の中で停滞している。少数小ロットで物流しているため経費が増加傾向で利益が少なくなっている」
- ・「原料の他、電気・ガス料金が上昇。今後も上昇が見込まれるため、製品価格についても値上げを検討している」「現状、製品価格変更していないが、後は値上げ交渉を検討」

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ✓売 上…… 菓子の前月比、先行きともに業者により増減分かれるが、増加の声やや多い。食品全体では当月は増加見込みと減少見込みの声が拮抗しており、先行きは増加見込みの声が多い。
- ✓景 況 感… 当月、先行きともに業者により見方が分かれるが、当月はやや悪化との声が多い。

食品製造 前月比回答割合



〔企業からのコメント〕

- ・「干ばつ、猛暑等の影響で農作物の入荷が減少して出荷調整となり、売上減少となってしまった」「9月は一般食料品の値上げが多く、買い控えや節約消費がさらに増した感がある。その分、行楽や娯楽へといった行動が多くなりつつある」「物価高、残暑など要因はいろいろあると思われるが、低調との声が多い」「食料品全般に価格上昇があり、消費の落ち込みが懸念される。主食関連ではない副菜材料の食品は、食べなくても問題ないものに関しては厳しいと感じる」
- ・「10月からの最低賃金の上昇や原料高等、食料品製造業の厳しさが増している。値上げも愚直に行っているものの、節約・選択消費が継続している以上、当面は厳しい状況が継続すると思われる」「原料野菜の不足、高騰の影響が大きい」「卵をはじめ、値上げが続く」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ✓売 上… 前月比はやや増加、先行きはやや増加～増加。景況感はやや悪化～横ばいで、次月以降は横ばい～やや好転。

〔企業からのコメント〕

- ・9月納品予定の品が間に合わず10月納品にずれ込んだため、その分売上減少。随時の注文には値上げして販売。
- ・神社、仏閣への参拝者やお賽銭も減少し、金回りも減少している。また国内製造の会社の生産能力が低下し、海外製造の会社の勢いがある。日本国民の人口減少が一番の悪化の原因と感じる。

●上記以外の製造業

- ✓建築用金属製品… 販売は前月比、前年比とも横ばい、先行きはやや減少を見込む。景況感は当月、先行きともやや悪化を見込むという。
- ✓自動車向け部品… 販売は前月比でやや増加、先行きもやや増加を見込むという。景況感については、当月、先行きともに横ばい。
- ✓印 刷…………… 販売は前月比増加、前年比は減少。原材料単価は上昇、先行きも上昇を見込むという。

〔企業からのコメント〕

- ・現在、どの地域も新規の物件は少ない。首都圏では、来年～再来年に着工する物件が多く、次の仕事のピークは2～3年後と思われる。
- ・前月比売上は増加したものの、前年対比はマイナス。昨年の大物単発品への穴埋めができなかった。
- ・板紙はすでに値上がり、その他の一般印刷用紙も値上げの話がある。11月頃からメーカーが具体的な値上げ額を提示してくると思われる。資材の値上げがある中で、労務費の値上げも行いたい、他社との競争も厳しい中でなかなか値上げができない。
- ・ものづくり補助金が採択されたため、それに合わせた設備発注を実施。

建設業

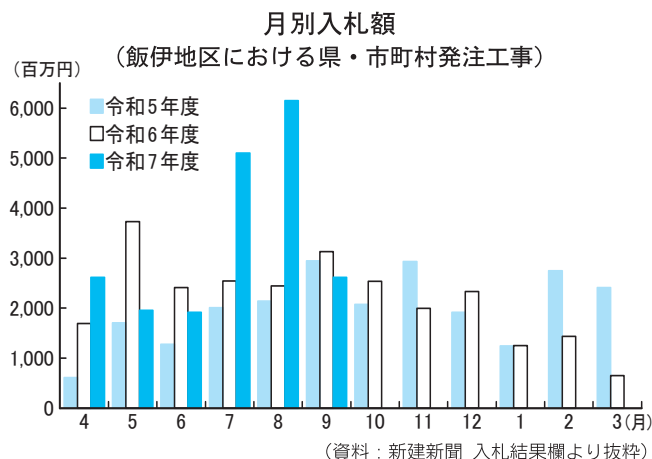
官公需

概況 9月の公共工事入札金額は前年比で16.5%減少、一昨年比では11.3%減少

☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、26.2億円（10月15日調査時点）。前年に比べ16.5%減少、2年前との比較では11.3%の減少。

☑景況感…………… 当月は横ばい～やや好転で、横ばいとの声が多い。先行き見込みも横ばい～やや好転で、当月、先行きともに悪化との声はなかった。

☑原材料価格…………… 当月は横ばいとの声が多数を占める。先行きはやや上昇との声が多い。



[企業からのコメント]

- ・「受注額は前年よりも増加している。また進捗率の上昇により工事高も増加した」「公共工事の発注が進み、受注残高も増加してきている」
- ・セメントの値段が特に上がっている。アスファルトも上昇。
- ・「人員対策として、各方面へ引き続き募集を行っている」「業務量はあるが、技術者は不足」「施工社員の不足が続いている。中途採用に力を入れる」「恒常的な人材不足」「人繰りが課題」
- ・「ソフトウェアの入替を実施」「調査機器の導入を実施。今後は社屋の増築を予定」「現状は新たな設備投資の予定はない。今後は必要に応じて検討」

民需

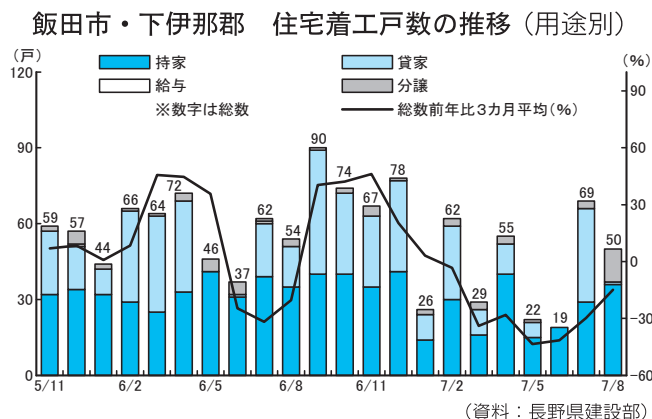
概況 令和7年8月の住宅着工戸数は50戸で前年比7%減少。

持家と分譲は増加も、貸家が減少し、2か月ぶりに前年比マイナス

☑住宅着工戸数… 当地区の8月の住宅着工戸数は50戸。前月比28%減、前年比では7%減。持家の戸数は36件で前年（35件）からやや増加。貸家は1件で前年（16件）から減少、分譲は13件で、前年（3件）から増加。

☑景況感…………… 当月は横ばいとの声が多い。先行きは業者により見方が分かれる。

☑原材料価格…………… 当月は横ばい～やや上昇。先行きについても同様で、下降との声はない。



[企業からのコメント]

- ・職人が少ないため、工期が伸びる現場が出てきた。

建設資材等

概況 9月の生コンの売上は前月比増加、前年比は業者により増減分かれる。

骨材は前月比増加、前年比は業者により増減分かれる

☑生コン … 売上は前月比では増加、前年比は業者により増減分かれる。

☑骨材 … 売上は前月比増加、前年比は業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・9月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、発電所工事、工場建設等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の約5割割。
- ・「飯伊の砂利採取販売組合全体として、生コン向け出荷は前月比、前年比ともに売上増加。リニア生コン需要が順調に動いた結果と言えそう」「リニア工事がある会社は出荷があったようだ。それ以外の工事は11月以降に動きがあると予想」「リニア生コン需要が一時少なかったが、蘇ってきた感がある」
- ・長野県全体で見ると、生コンの出荷があるのは下伊那だけだという話も聞く。

商業・サービス業

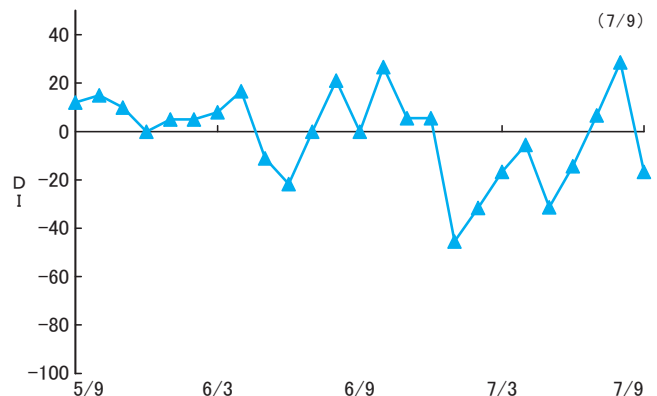
概況 景況DIは前月から悪化。飲食業、宿泊業で景況感悪化との声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はマイナス16.7で、前月から45.3ポイント低下。

夏休みシーズンが終了した当月は飲食業と宿泊業で景況感悪化の声が多く聞かれ、小売業と卸売業の一部には景況感好転の声があったものの、指数は前月から大幅に悪化した。物価高の影響を指摘する声は多く、今年の新米についても高値圏で推移しているとの声があり、影響はまだまだ続くように見受けられる。

次月以降は飲食業、宿泊業でも好転を見込む声があり、全体的には好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。景況感は横ばい～やや好転

✓売上 … 前月比は業者により増減分かれる。前年比はやや減少。

✓景況感 … 当月は横ばい～やや好転。先行きはやや悪化～横ばい。

〔企業からのコメント〕

- ・新米の販売が始まったが、高値で推移している。
- ・ガソリン代や電気代、食品等の物価上昇や暑さによる買い控えがあり、来店客数減少。

●卸売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。景況感も業者により見方が分かれ、先行きは横ばい～やや好転

✓売上 … 青果、食肉、建築資材は前月比やや増加。電設資材は前月比減少。

〔企業からのコメント〕

- ・野菜は、人参、白菜、馬鈴薯、玉ねぎが売上増加。主力のキュウリも昨年並みの売上となり、全体では昨年比で価格は少し安くなったものの販売量が伸びたことで売上増となった。猛暑の影響で、今後の山きのこの出荷が心配される。果実は、主力の梨は入荷減、価格も品質も悪く値段も安くなった。ぶどう類はシャインマスカットやナガノパープルの売上好調により増加。りんごも豊作の傾向で売上増加も、梨の影響が大きく、果実全体の売上は昨年比で減少した。
- ・エネルギーコスト高騰対応として、省エネ化・自動化・電気設備の更新投資が増加している。ただ、為替や関税の不透明さから、各企業の投資決定タイミングが後ろ倒しになる案件も散見される。
- ・食肉は、鶏、豚、輸入肉ともに仕入れ価格が上昇しており、先行きも上昇が見込まれる。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業、宿泊業ともに減少との声が多い。景況感は飲食業は悪化～横ばい、宿泊業は業者により見方が分かれる

✓売上 … 飲食業、宿泊業ともに前月比は業者により増減分かれるが、減少の声が多い。運輸業は前月比減少。

〔企業からのコメント〕

- ・「9月に入っても暑い日が続き、静かな月となった。物価上昇も続き、景気は悪くなっていると感じる。暑さにより生ビールは売れて客単価は良くなったが、少人数が多く夜の引けが早い。今月の売上は前年に届かず」「飲食業界では週末にかけての動きはあるが平日は動きが鈍い」とよく聞かすが、今に始まったことではない。秋口～年末にかけては予約の電話も多くなってきた」
- ・「例年9月は大学生のツアー客の恩恵でもう少し売上があったが、9月20日までの星空ナイトツアー運休もあって今年は苦戦した」「9月は全体としては昨年並を維持できたが、やや販売単価が下がり、さらに米を筆頭とした物価の上昇により利益を圧迫されている」「夏休みが終わり、一息つく季節になった。下期に向けた体制作りが急務」「諸物価の高騰を受け、新価格の設定を急ぎたいが、客足が鈍くなることが懸念される」「インバウンドは国内に多数来ているようだが、鬼神にはさほど外国人は見受けられず、恩恵はない」「高付加価値の宿泊消費意向については、相変わらず底固い。エリアや消費階層といったターゲットングコンセプトを磨き、導いた仮説へのアクション持続力が問われている」
- ・コロナ前との売上対比は7.5割強で、タクシー運行回数は6.5割弱。10月の最低賃金改定が固定費の増加につながるため、事業の継続、24時間営業をどうするのか、各社ともに大きな不安ではないかと思う。各産業も値上げする中で、タクシー運賃も料金改定が必要である。

－ 米国関税の影響に関するアンケート調査結果 －

しんきん南信州地域研究所では、本年4月に方針が示された米国関税が与える影響について、地域の事業者様を対象としたアンケート（以下、「米国関税アンケート」）を実施しました。

ご多忙の中ご回答いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

I アンケート概要

- ・飯田下伊那地域の企業を調査対象として、郵送・メール・インターネットによる回答を集計
- ・回答総数 8月分：57（製造業33、建設業14、卸・小売、飲食、宿泊業などを含む商業・サービス業10）
9月分：63（製造業31、建設業21、卸・小売、飲食、宿泊業などを含む商業・サービス業12）
10月分：55（製造業29、建設業14、卸・小売、飲食、宿泊業などを含む商業・サービス業12）
- ・調査期間 8月分：2025年8月1日～8月20日、9月分：2025年9月1日～9月20日
10月分：2025年10月1日～10月20日

II 米国関税の経過（経済産業省HPより抜粋、一部補足）

- ・4月5日から、実質的に全ての国・地域から輸入されるほぼ全ての品目に一律10%のベースライン関税適用（4月5日より前の関税率にプラス10%）。4月9日から、57カ国・地域に対してはそのベースライン関税をそれぞれ設定した関税率（日本は24%）まで引き上げられたが、4月10日から引き上げが一時停止。
- ・8月7日から大統領令に列挙した国・地域について、それぞれ設定した関税率まで引き上げ。日本に対する相互関税率は、7月22日の日米合意を経て、最終的に15%と設定。

III アンケートの結果

●米国関税が、現時点で事業者に与えている影響について

米国関税が現時点で与えている影響について、「大いに影響がある」「多少影響がある」「どちらともいえない」「あまり影響はない」「まったく影響はない」「分からない」の内から一つ選択してもらった。

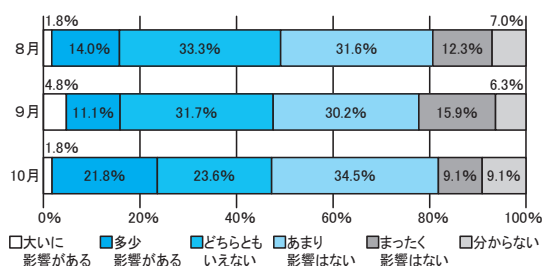
事業者全体で、「大いに影響がある」もしくは「多少影響がある」と回答した事業者は15.8%（8月）、15.9%（9月）、23.6%（10月）となっており、10月時点で4者に1者程度という状況ではあるが、時期が進むにつれて影響を受ける事業者の割合が増加している様子が見てとれる。一方、「あまり影響はない」もしくは「まったく影響はない」と回答した事業者は43.9%（8月）、46.1%（9月）、43.6%（10月）となっており、4割超の事業者は大きな影響はないとしている。「どちらともいえない」は33.3%（8月）、31.7%（9月）、23.6%（10月）となっており、時間の経過により影響の有無が明確になってきていると考えられる。

また、米国関税の影響が大きいとされている製造業と、それ以外の業種で分けてみると、製造業では「大いに影響がある」もしくは「多少影響がある」との回答が24.2%（8月）、26.7%（9月）、34.4%（10月）となっている一方、製造業以外では4.2%（8月）、6.1%（9月）、11.5%（10月）となっており、その差が鮮明に表れている。製造業においては直近の10月時点で3者に1者を超える事業者が何らかの影響があると捉えていることになり、7月の日米合意以降、報道等で聞くことが少なくなった米国関税の影響が、徐々に事業者（特に製造業）の中で拡大してきているといえるのではないかな。

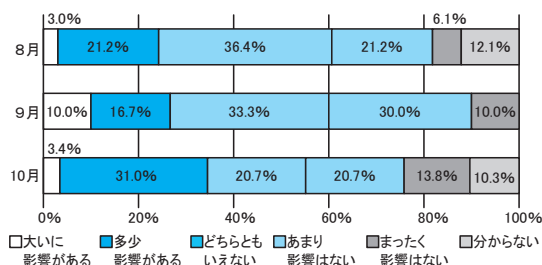
●米国関税が、中長期的に事業者に与える影響（今後5年程度）について

本調査では、米国関税が与える今後5年程度の中長期的な影響についても、「大いに影響がある」「多少影響がある」「どちらともいえない」「あまり影響はない」「まったく影響はない」「分か

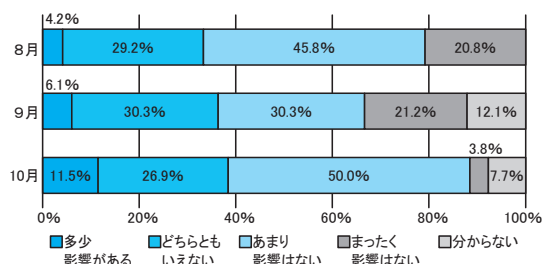
米国関税の現時点での影響（全体）



米国関税の現時点での影響（製造業）



米国関税の現時点での影響（製造業以外）



らない」の内から一つ選択してもらっている。

事業者全体で、「大いに影響がある」もしくは「多少影響がある」と回答した事業者は36.8%（8月）、36.5%（9月）、41.8%（10月）となっており、現時点での影響と同様に、時期が進むごとに影響があるとする事業者の割合が増加している。中長期的な影響があるとする割合は、現時点での影響よりも高く、4割超の事業者が影響を受けると考えている。

こちらも製造業と、それ以外の業種で分けてみると、製造業では「大いに影響がある」もしくは「多少影響がある」との回答が48.4%（8月）、45.1%（9月）、55.2%（10月）となっている一方、製造業以外では20.8%（8月）、25.8%（9月）、26.9%（10月）となっている。中長期的にみても、製造業の方が影響があるとする事業者の割合が高いが、製造業以外の業種では「どちらともいえない」もしくは「分からない」とする回答が10月時点で46.1%あり、米国関税の影響を捉えきれず、先行きの不透明感を感じている事業者が多いことが窺える。

●事業者のコメントより（一部抜粋）

・8月調査

「そこまで大きな影響はないと判断しているが、今後5年程度に関しては想像がつかない。但し、特に自動車に与えるインパクトが大きく、このような雰囲気は国内外の経済に与える印象から買い控えがより一層色濃くなり、景気後退することを心配している」「輸出をしている最終ユーザーの動向によるが、現時点では明確な方向性が見えていない状況」「方向性が決まるまではショックが大きかったが、交渉がまとまりそうなタイミングでは、影響が薄れた感じがある。今後は、為替での吸収も考慮し徐々に落ち着くのではないかと考えている」（以上、製造）

「中京方面のお客様が割合として高く、自動車、鉄鋼関係の仕事に関わっている人達が多いので今後が不安」「アメリカに見られる自国保護政策による可変は生じるであろうが、最終的には市場が判断していくものと予測。とはいえ、自動車製造関連での就業者が多数を占める中部経済圏の動向には注視」（以上、飲食・宿泊・観光）

「直接的な影響はない。全ての原材料が上げれば、いずれ影響があるかも」（卸・小売）

・9月調査

「輸出製品の生産が軒並み減少している。医療器、半導体製造装置関連の減少が著しい」「ドル、ユーロ、日本の貨幣価値が下がり、世界的にインフレ傾向が益々高まるのでは」「関税の直接的な影響よりも、景気全般・消費動向に与える影響が心配」（以上、製造）

「関税政策による製造業などへの影響が出てから、波及的に影響を受けるものと思う」「アメリカからの輸入食材の価格が下がれば仕入に期待したい」（以上、飲食・宿泊・観光）

「顧客先に半導体・自動車関連企業も多く、今まで順調に設備投資を行ってもらったこともあり、堅調な受注を受けていた。しかしながら、関税措置への備えに重きを置く企業が増え、投資フェーズが変わりつつある」（卸・小売）

・10月調査

「航空機関連に関しては関税の影響が少ない」「影響がないわけではないが大きな影響はなく、正直実感がわかないという印象」「発表直後と比較して、良くも悪くも影響がはっきりしない」「中長期的には輸出の減少や製品価格下落に直面し、業績が悪化するリスクがある。また米国の半導体規制強化により中国ローカルメーカーの技術革新が凄まじく、競争が激化するとともに、中国への販売額低下が懸念される」（以上、製造）

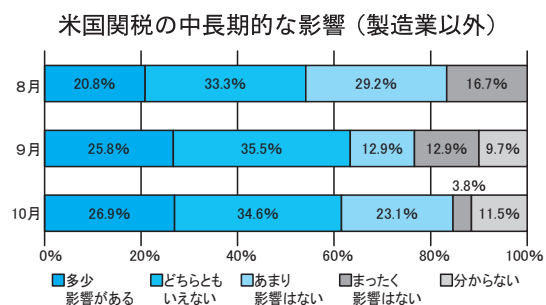
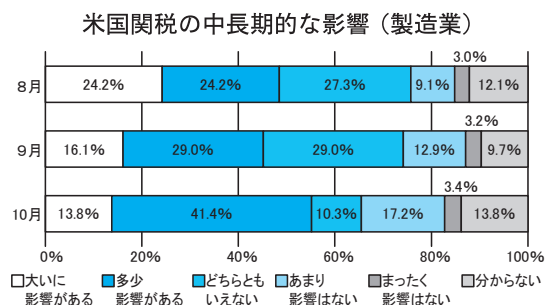
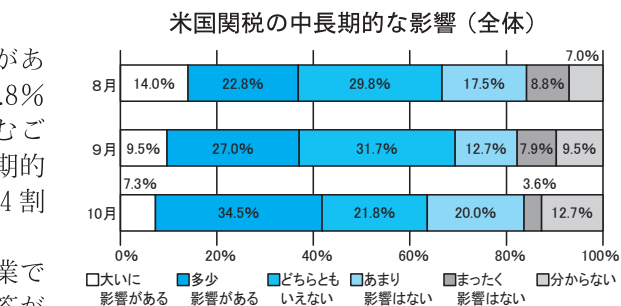
「米国関税の影響なし」（建設）

「12月の自動車下請け会社の忘年会の取りやめ等が出ないかは心配」「中部経済圏主力産業の自動車関連輸出市場の変化に応じた景況感が、宿泊消費に影響」（以上、飲食・宿泊・観光）

「海外調達に依存している主要素材（鋼材/アルミ/銅）や、中間部品であるEV/再エネ関連部材の価格変動が大きく、各メーカーからの値上げ要請が多数」（卸・小売）

Ⅳ まとめ

事業者のコメントからは、米国関税による輸出減少といった直接的な影響に加え、製造業を中心とした景況感の悪化が他の業種にも影響を及ぼしつつある状況が窺える。本年4月の発表当初に比べれば取り上げられることが少なくなった米国関税であるが、その影響は着実に当地域にも押し寄せていることは認識しておく必要があるのではないかと考える。



主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高 速 バ ス 乗 車 人 数							
	飯 伊 地 区		飯 田 ～ 新 宿		飯 田 ～ 名 古 屋		飯 田 ～ 長 野		伊 那 ・ 駒 ケ 根 ～ 新 宿	
	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
令和元	710	11.5	326,056	△ 0.3	226,581	3.0	108,454	△ 3.9	263,821	—
2	771	8.6	102,394	△ 68.6	85,747	△ 62.2	49,063	△ 54.8	71,390	△ 72.9
3	686	△ 11.0	90,496	△ 11.6	77,895	△ 9.2	39,668	△ 19.1	53,800	△ 24.6
4	638	△ 7.0	163,493	80.7	118,343	51.9	40,389	1.8	117,160	117.8
5	712	11.6	253,155	54.8	162,326	37.2	47,075	16.6	195,366	66.8
6	754	5.9	266,529	5.3	167,471	3.2	46,210	△ 1.8	219,907	12.6
令和 6. 7	62	5.1	21,169	2.4	13,028	△ 4.2	3,748	△ 6.2	17,985	4.1
8	54	1.9	29,041	2.6	16,210	△ 2.6	3,891	△ 1.7	22,581	3.1
9	90	114.3	21,915	7.5	13,778	0.9	3,724	△ 5.9	19,325	10.8
10	74	10.4	22,134	5.1	14,466	1.7	4,260	△ 0.1	18,687	4.9
11	67	13.6	22,497	8.2	14,245	0.0	3,955	△ 0.8	18,348	11.6
12	78	36.8	24,707	8.1	14,276	2.5	3,344	△ 8.3	18,697	7.2
令和 7. 1	26	△ 40.9	23,617	10.3	13,817	2.8	3,324	△ 4.5	17,869	7.0
2	62	△ 6.1	20,529	10.6	13,147	△ 0.4	3,210	△ 5.2	16,479	6.9
3	29	△ 54.7	24,873	1.9	16,266	3.0	3,759	△ 5.0	20,180	△ 2.5
4	55	△ 23.6	20,146	1.4	13,374	3.2	4,451	9.0	17,159	0.2
5	22	△ 52.2	23,483	7.1	14,516	5.6	5,189	21.9	18,680	3.1
6	19	△ 48.6	19,826	4.9	12,757	3.5	4,874	18.2	16,862	3.9
7	69	11.3	22,493	6.3	13,911	6.8	4,622	23.3	19,096	6.2
8	50	△ 7.4	31,526	8.6	18,025	11.2	5,001	28.5	24,870	10.1
9	—	—	22,100	0.8	14,029	1.8	4,413	18.5	18,716	△ 3.2
資料出所	長野県建設部住宅課		信 南 交 通 株 式 会 社							

項目 年月	自 動 車 新 規 登 録 台 数 (松本登録事務所管内)				軽 自 動 車 新 規 登 録 台 数 (全国軽自動車協会連合会)			
	新 車		中 古 車		新 車		中 古 車	
	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比
	台	%	台	%	台	%	台	%
令和元	29,312	6.5	8,548	16.3	51,498	1.1	12,069	4.3
2	26,002	△ 11.3	8,674	1.5	47,551	△ 7.7	12,591	4.3
3	24,672	△ 5.1	8,716	0.5	44,333	△ 6.8	12,880	2.3
4	22,564	△ 8.5	8,133	△ 6.7	44,005	△ 0.7	12,455	△ 3.3
5	26,537	17.6	8,240	1.3	47,269	7.4	12,670	1.7
6	24,403	△ 8.0	8,864	7.6	41,044	△ 13.2	12,784	0.9
令和 6. 7	2,193	3.4	777	11.0	3,583	5.1	1,130	13.3
8	1,759	△ 4.4	648	△ 5.0	3,051	△ 9.3	838	△ 7.0
9	2,349	△ 1.6	677	2.3	4,385	△ 0.7	898	△ 6.7
10	2,203	△ 0.3	881	19.7	3,867	△ 5.2	1,006	1.8
11	2,105	△ 9.0	690	△ 3.2	3,630	△ 13.6	941	2.6
12	1,888	△ 2.5	693	△ 3.5	3,197	△ 7.9	935	4.5
令和 7. 1	1,970	12.2	553	△ 2.0	3,379	20.0	874	7.2
2	2,072	17.3	654	△ 2.7	3,614	18.5	889	△ 0.8
3	3,002	7.3	852	△ 11.4	4,536	8.0	1,092	△ 1.1
4	1,945	4.0	861	12.4	3,308	19.7	1,787	0.9
5	1,764	5.1	744	△ 4.9	3,340	12.9	1,284	△ 2.4
6	1,972	△ 3.1	776	3.2	4,012	13.2	1,195	5.4
7	1,790	△ 18.4	701	△ 9.8	3,710	3.5	1,158	2.5
8	1,629	△ 7.4	712	9.9	4,211	38.0	850	1.4
9	2,267	△ 3.5	796	17.6	—	—	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				一般社団法人全国軽自動車協会連合会長野事務所			

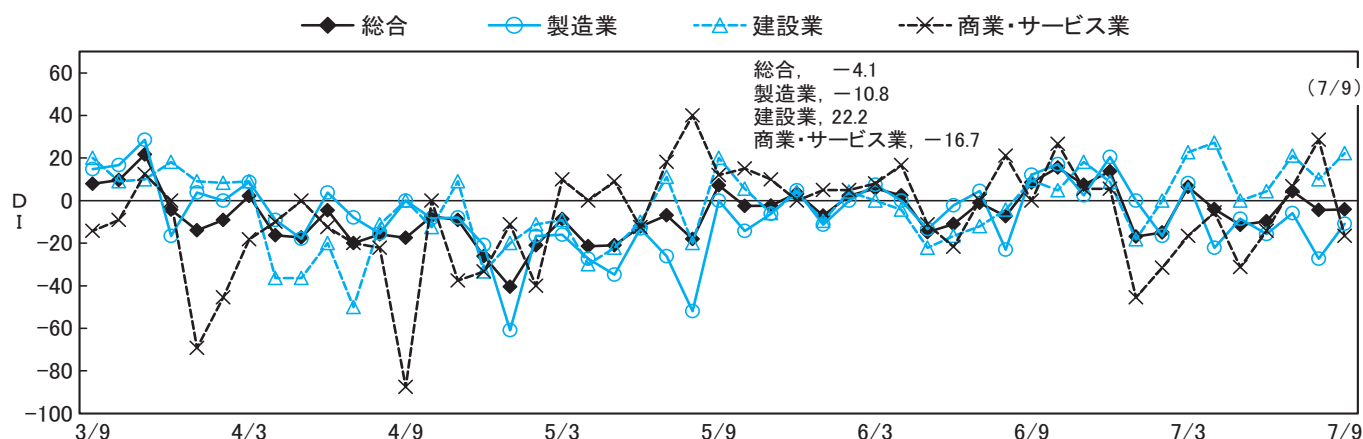
項目 年月	有効求人倍率			倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	長野県	飯田管内		長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	季節調整値 (但、年平均は実数)	パート含む実数	パート除く実数				
	倍	倍	倍	件	件	件	%
令和元	1.60	—	—	79	8	1,842	1.5
2	1.16	—	—	80	8	3,707	101.2
3	1.33	—	—	66	9	1,799	△ 51.5
4	1.54	—	—	70	9	1,446	△ 19.6
5	1.45	—	—	73	8	1,669	15.4
6	1.33	—	—	101	8	1,650	△ 1.1
令和6.7	1.32	1.34	1.28	8	0	114	△ 13.0
8	1.31	1.30	1.25	6	0	106	△ 10.2
9	1.31	1.41	1.35	6	1	151	△ 10.1
10	1.31	1.40	1.32	10	1	147	△ 1.3
11	1.30	1.56	1.44	13	2	113	△ 24.7
12	1.30	1.47	1.36	9	0	147	3.5
令和7.1	1.28	1.40	1.33	11	0	121	△ 8.3
2	1.29	1.44	1.37	2	0	129	△ 4.4
3	1.30	1.38	1.31	7	1	190	△ 5.0
4	1.29	1.33	1.24	8	0	126	23.5
5	1.27	1.28	1.57	9	0	123	△ 3.1
6	1.26	1.31	1.65	6	1	144	△ 18.2
7	1.28	1.36	1.68	6	0	128	12.3
8	1.24	1.30	1.54	8	1	128	20.8
9	—	—	—	8	1	164	8.6
資料出所	長野労働局・ハローワーク飯田			南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	中央道利用台数（インターチェンジ出入合計）									
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C		座光寺 S I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%	台	%
令和元	2,741,865	△ 0.9	1,836,395	△ 1.9	405,661	△ 4.3	1,015,783	△ 0.2	—	—
2	2,191,489	△ 20.1	1,539,468	△ 16.2	330,231	△ 18.6	849,805	△ 16.3	—	—
3	2,069,577	△ 5.6	1,334,516	△ 13.3	328,892	△ 0.4	896,142	5.5	—	—
4	2,192,851	6.0	1,331,034	△ 0.3	380,886	15.8	1,045,343	16.6	799,207	—
5	2,330,747	6.3	1,397,630	5.0	365,362	△ 4.1	1,143,659	9.4	904,767	13.2
6	2,313,466	△ 0.7	1,341,767	△ 4.0	300,978	△ 17.6	1,210,415	5.8	1,006,973	11.3
令和6.7	200,714	△ 1.9	111,585	△ 8.3	24,800	△ 25.1	108,296	3.5	89,192	11.5
8	207,716	△ 1.3	118,093	△ 7.3	32,531	△ 5.1	112,903	4.6	88,402	10.5
9	200,742	△ 0.3	121,084	△ 3.9	28,304	△ 4.6	104,589	6.2	90,057	14.4
10	196,690	△ 6.0	133,688	△ 2.0	35,419	△ 8.7	120,753	7.2	101,195	24.9
11	211,043	1.8	137,902	1.0	36,391	24.1	117,329	△ 3.0	88,072	9.5
12	192,986	0.7	111,190	△ 1.9	20,698	0.0	88,294	5.3	84,187	10.6
令和7.1	175,923	0.8	93,216	△ 2.1	22,996	7.7	79,295	7.5	79,766	13.1
2	163,209	△ 0.7	88,751	△ 0.7	23,188	29.5	75,410	1.7	73,029	10.0
3	194,875	0.6	103,309	△ 3.0	22,612	105.7	90,528	△ 7.6	87,104	8.3
4	188,846	0.8	102,995	△ 0.6	50,169	96.1	109,375	6.7	85,834	6.4
5	200,508	1.9	105,477	△ 2.6	32,926	30.2	106,067	2.9	90,345	7.1
6	190,702	2.1	106,998	1.6	20,519	△ 5.5	96,785	△ 9.3	92,297	10.5
7	209,497	4.4	122,097	9.4	27,339	10.2	107,971	△ 0.3	99,147	11.2
8	216,441	4.2	121,073	2.5	36,631	12.6	118,982	5.4	97,502	10.3
9	203,184	1.2	127,238	5.1	25,885	△ 8.5	101,186	△ 3.3	92,470	2.7
資料出所	中日本高速道路（株）名古屋支社飯田保全サービスセンター									

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県 内	8 件	(前月 8 件)	(前年同月 6 件)	(前々年同月 7 件)	(令和元年同月 7 件)
	飯 伊	1 件	(前月 1 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 1 件)	(令和元年同月 3 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (8月)		50 戸	△ 27.5 %	△ 7.4 %	△ 5.7 %	2.0 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (8月)		1.30 倍	(前月 1.36 倍)	(前年同月 1.30 倍)	(前々年同月 1.56 倍)	(令和元年同月 1.47 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	2,267 台	39.2 %	△ 3.5 %	△ 5.1 %	△ 32.2 %
	中古車	796 台	11.8 %	17.6 %	20.2 %	△ 1.0 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (8月)	新 車	4,211 台	13.5 %	38.0 %	25.1 %	15.8 %
	中古車	850 台	△ 26.6 %	1.4 %	△ 5.7 %	6.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	101,143 台	△ 6.8 %	1.9 %	3.3 %	△ 13.6 %
	出	102,041 台	△ 5.4 %	0.5 %	△ 1.4 %	△ 13.7 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	64,471 台	3.4 %	5.3 %	0.7 %	△ 22.8 %
	出	62,767 台	6.8 %	4.9 %	1.4 %	△ 21.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,814 台	△ 26.8 %	△ 13.5 %	△ 15.1 %	△ 14.3 %
	出	12,071 台	△ 32.0 %	△ 2.2 %	△ 10.0 %	△ 23.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	52,305 台	△ 12.3 %	0.4 %	10.0 %	19.0 %
	出	48,881 台	△ 17.6 %	△ 6.9 %	△ 4.0 %	8.5 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	45,297 台	△ 5.8 %	1.9 %	13.5 %	— %
	出	47,173 台	△ 4.6 %	3.4 %	21.5 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		164 件	28.1 %	8.6 %	△ 2.4 %	△ 7.9 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		5 件	(前月 4 件)	(前年同月 13 件)	(前々年同月 14 件)	(令和元年同月 6 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,100 人	△ 29.9 %	0.8 %	8.4 %	△ 20.7 %
	飯田～名古屋	14,029 人	△ 22.2 %	1.8 %	2.7 %	△ 25.5 %
	飯田～長野	4,413 人	△ 11.8 %	18.5 %	11.5 %	△ 49.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,716 人	△ 24.7 %	△ 3.2 %	7.3 %	△ 17.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,839 人	△ 17.0 %	△ 7.2 %	3.0 %	△ 23.0 %
	右回り	2,998 人	△ 3.4 %	0.4 %	8.1 %	△ 16.7 %